

いずみ 6月



平成28年6月20日(月)第2号

汗をいっぱいかきながらゲームに夢中になっていたちびっ子まつり。冷たい水に歓声をあげていたプール清掃。子供達の様子から夏の訪れを感じる季節になりました。前号でもお知らせしました通り、今年度は「小中連携推進事業」に取り組んでいます。その概要をご紹介します。



ひとがすき 自分がすき 学びがすき

「小中連携事業」の大きな目的は、小中のつながりをよくすることによって子どもたちの豊かな育ちを支えることにあります。敷島小学校では、小学校入学から敷島地区を巣立って進学するまでの9年間を見通して3つの側面から子供達の成長を応援していこうと考えています。

ひとがすき 児童生徒の交流促進

中1ギャップは、よく分からないことの不安から始まるのではないのでしょうか。児童と生徒が行事や課外活動などを通して交流することでお互いの様子を知り、理解を深めます。

- ・小中合同あいさつ運動
- ・6年生の中学校見学
- ・行事交流
- ・生活のきまりの見直しなど



自分がすき

自己肯定感豊かな子どもの育成

思春期は人との違いを強く意識して自分に自信をなくしてしまう時期。勉強や友人関係に悩むことも出てきます。思春期に入る前にしっかりと自分を作っておくことが大切です。自己肯定感の豊かな児童の育成に努めます。

- ・児童生徒の実態把握
- ・付けさせたい道徳的価値の共有
- ・心を育てる道徳授業の充実など

学びがすき

見通しを持って意欲的に学ぶ子どもの育成

新しい教科が増えたり定期テストがあったりと、小学校とは違う中学校の学習に対する不安は大きなものがあります。学習ギャップを生まないために学びの連続性を重視していきます。

- ・学力の分析
- ・系統性を意識した授業の充実



敷島地区小中
4校が協力して研
究を進めていき
ます。

